

令和6年7月19日

課名 地域政策局公共交通政策課

担当者 担当課長（交通活性化担当）矢島

内線 2585

芸備線再構築協議会第2回幹事会の開催結果について

1 概要

芸備線 備後庄原駅～備中神代駅間の交通手段再構築を議論する「芸備線再構築協議会」について、令和6年7月10日、第2回幹事会が開催されたため、その結果について報告する。

〔芸備線再構築協議会の概要〕

- 対象路線：芸備線
- 特定区間：備後庄原駅（庄原市）～備中神代駅（岡山県新見市）
- 構成員：中国運輸局（議長）、岡山県、広島県、新見市、庄原市、三次市、広島市、JR西日本、学識経験者 ほか
- 位置づけ：特定区間の交通手段再構築を協議する場
※広域的な見地から特定区間以外の区間も含めて広島駅～備中神代駅間の区間について議論を行う。

2 現状・背景（経緯）

令和5年10月3日 JR西日本が、地域交通法に基づき、備後庄原駅～備中神代駅間における再構築協議会の設置を要請

令和6年1月12日 中国運輸局が芸備線再構築協議会の設置を決定

3月26日 第1回芸備線再構築協議会 開催

5月16日 芸備線再構築協議会第1回幹事会 開催

7月10日 芸備線再構築協議会第2回幹事会 開催

3 議事

（1）調査事業の実施等について

- ・ 調査事業等の外部委託
- ・ 調査事業等の実施における各構成員の負担割合
- ・ 芸備線再構築協議会スケジュール

（2）その他

4 議事の内容

（1）調査事業の実施及び外部委託について

次の各項目について、各構成員間で了承を得られた。

- 調査内容は、議論に必要な基礎データを収集し、現状把握や総合的な分析を行うこと。

〔具体的な内容〕

- ・ 芸備線や沿線地域の現状・公共交通の現状の把握
- ・ 将来人口予測など庄原市等の将来の地域の姿
- ・ 芸備線による多様な価値の創出やポテンシャルの有無に関する分析 等
- 調査結果を踏まえ、芸備線の可能性追求のための実証事業の検討を行うこと。
- 調査は外部委託により実施し、併せてヒアリングやアンケート等の意見聴取の実施手法や時期、内容についても企画提案の中で求めていくこと。

構成員	主な発言内容
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンサルの知見を活用していくことを含め、進め方について賛成する。 ・ 関係者ヒアリングについては、正しい判断ができるよう、事前に正確な情報を伝えるとともに、年齢やタイミングなどバランスを取りながら検討をお願いしたい。
広島県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査事業の内容は、公共交通計画を策定する際に必要な手法をベースに設計されており妥当である。 ・ 調査に当たっては、沿線自治体全域の移動需要・供給の実態を把握し、公共交通への移動需要の集約に向けた検討を行う必要があるとともに、潜在需要の掘り起こしに向けた検討を行う必要がある。
新見市	<ul style="list-style-type: none"> ・ データ分析の取りまとめは、地域が衰退するようなイメージを持たせる表現にならないよう求める。 ・ 市議会や経済団体からも注目されており、意見聴取を検討してほしい。
庄原市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸備線による地域への多様な価値や役割を明らかにするとともに、実証事業を検証するには、鉄道の大量輸送性という軸に加え、鉄道ネットワークがもたらす地域への好影響をもう一つの軸として総合的に評価してほしい。
J R 西日本	<ul style="list-style-type: none"> ・ J Rとして保有している最新のデータを提供していく。高校生の移動需要や庄原ライナーに係る利用者の属性等の調査を速やかに行っていきたい。
呉工業高等専門学校 神田教授	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査事業の結果明らかになったポテンシャルを活かす主体として、地域の価値を引き出すプレイヤーと、それをマネジメントできる人材の両方が重要である。

(2) 調査事業の実施における各構成員の負担割合について

次の点について、各構成員間で了承を得られた。

- 調査事業の基本的な負担割合について、国1/2、J R西日本1/4、特定区間の自治体（岡山県・広島県・新見市・庄原市）1/4とすること。
- 自治体間の負担割合については、調査の内容や実施範囲等により、路線キロ等によって、負担額の調整を行うこと。

(3) 芸備線再構築スケジュールについて

構成員	主な発言内容
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最適な交通モードの検討の段階では、鉄道の可能性を含めて検討してほしい。
広島県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証事業は、スピード感を持って準備を進める一方、しっかりと着実に進める必要があるとともに、芸備線の可能性を最大限追求していくため、日常生活における行動変容や観光面での春夏秋冬の魅力を踏まえ、最低でも1年間は実施していくことが必要と考えている。
新見市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸備線の可能性を最大限追求するためには、行動変容や観光客の定着など時間を要するため、しっかり取り組めるよう調整してほしい。

(4) その他

鉄道ネットワークについて各構成員から意見が表明された。

構成員	主な発言内容
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> 国鉄改革の経緯を踏まえて発足した民間事業者という特殊性を踏まえ、国において整理していただく必要がある。
広島県	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道ネットワークのあり方について、国鉄改革の経緯や現在のJRの経営状況を踏まえ、内部補助によりどこまでローカル線を維持していくのか、また、将来の国土のあり方を見据えて、鉄道ネットワーク全体はどうあるべきか、これらのことが整理された上で、個々の路線、個別の区間の議論がなされるべきと考えている。このことは、再構築協議会の議論のベースとなるものであるため、早期に対応していただきたい。
庄原市	<ul style="list-style-type: none"> 国鉄時代からJRの時代を通じて築いてきた鉄道ネットワークは、極めて広域的で強固な既存のネットワークであり、仮に、この鉄道ネットワークが全国のあちらこちらで途切れた場合、そのことから生じる損失・利便性の低下は、地域住民にとっても、観光や地域振興における国土形成上においても、あまりにも大きすぎる。 「大量輸送性が鉄道の唯一の存在意義ではない」との考えの下、今後の協議にも臨んでまいりたい。 「鉄道ネットワーク全体の諸問題の取扱いについては、この協議会の場ではなく、全国レベルで検討していただくべき課題と考えている」との発言について、どういった場で議論され、この協議会にフィードバックされようとしているのか、説明してほしい。 前回幹事会において、JRからの「民間企業である当社としては、大量輸送という鉄道の特性を発揮できていないご利用の少ないローカル線に対して、利便性や生産性を高める設備投資などを単独で行うことは困難」との発言について、大量輸送特性が発揮できていない路線には、人も予算もかけることが困難という姿勢を表明されたものと受け止めているが、この発言について、国鉄改革の経緯を踏まえて設立された民間企業という背景を踏まえ、国の考えを伺う。
中国運輸局	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道ネットワークについては、岡山県、広島県、庄原市の考え方や質問については、本省に伝える。 設備投資などのJRの考え方については、コメントする立場にない。
JR西日本	<ul style="list-style-type: none"> 路線の防災対策や必要なメンテナンスは引き続き実施するが、利便性や生産性の観点から、利用状況の少ない地域に過剰投資していくことは難しい。このことは、民間企業の一般論として理解していただきたい。

5 今後の対応

- 第2回幹事会において調査事業の実施内容と負担割合の基本的考え方が整理されたことを受けて、再構築協議会に対する県分の負担金について、9月補正予算案として計上する方向で調整を進める。
- 調査事業の後に実施される実証事業においては、芸備線の可能性を最大限追求できるよう、日常利用の拡大や観光客の利便性向上及び地域産業の振興などに資する取組が展開されるよう、庄原市等と具体的な調整を進めていく。

6 その他

(1) 今後のスケジュール

令和6年10月頃 第2回芸備線再構築協議会

令和7年3月頃 第3回芸備線再構築協議会

(以降、順次開催)

(2) 予算(単県)

—